



## ◆ 年末のご挨拶

皆様には、平素からお世話になり、大変ありがとうございます。

さて、当センターの活動につきましては、気象庁をはじめ多くの関係者のご協力を頂きつつ進めてきており、おかげさまで順調に推移しております。

昨年7月に本格的に運用を開始した静止気象衛星「ひまわり8号」につづき、「ひまわり9号」が本年11月2日に打ち上げられ、11月11日には静止軌道（東経140.7度の赤道上空）に投入され、現在、軌道上での機能確認試験等が進められています。平成29年3月より待機運用を開始し、衛星観測の万全な体制が整うこととなります。当センターでは、気象衛星センター（東京都清瀬市）の庁舎内に配信システムを整備していますが、おかげ様で利用者数も20者を超え順調に画像を提供させて頂いています。

また、配信システムでは、気象注意報・警報や地震情報等の防災情報を主に提供している「電文形式配信システム」を本年12月に更新し、続いて、年明けには「大阪バックアップシステム」の更新を計画しています。緊急地震速報配信システムにつきましても、来年度の気象庁による情報の改善と併せて、システムを更新する予定です。ひまわり画像、注意報・警報、地震・津波情報、緊急地震速報等は、日々国民の皆様届けられ、生活や安全になくてはならない情報です。引き続き、センターとして確実に情報提供できるよう万全を期したいと考えております。

気象予報士試験につきましては、昨年より受験申請者は若干減少しましたが、6,942名の申請があり、257名の方が合格しました。気象予報士の技能向上に向けて、各種講習会の開催や気象庁作成の研修テキストの頒布など、引き続き技術的な支援を行うこととしています。

気象測器の検定につきましても、気象観測の品質確保の重要性から、毎年1万件を超える雨量計、温度計、風速計等の検定を行ってきています。

また、調査業務としましては、2020年夏の東京オリンピックを前にして、熱中症対策のための気象等の観測とともに夏季イベントにおける熱中症対策ガイドライン作成のための基礎調査など、環境省等の関係機関と協力して行っています。<sup>1</sup>

さらに、国際協力機構（JICA）等と協同して、世界各国の気象機関等への海外支援を行ってきており、本年も、フィリピン、ブータン、エルサルバドル、モザンビーク等において気象観測・予報警報や地震津波監視などの能力向上のためのプロジェクトを行ってしています。近年多くの国々で、台風等の気象分野に加えて、地震・津波等の分野にも大きな関心が寄せられており、我が国の知見・経験を十分に活かしながら防災・減災に向けた技術支援を行っていきたいと考えております。

いずれにしましても、本年、円滑に業務運営できましたことに関係各位に改めてこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

来る年、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りするとともに、引き続き、当センターの業務へのご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

<sup>1</sup> 環境省による「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン」  
[http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke\\_gline.php](http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke_gline.php)



首都マプトにある  
INAM 本庁舎



福岡ー札幌 1,400 km

モザンビーク海峡



INAM 本庁での研修風景



ベイラでの  
雨量計設置終了後の一コマ



(一財)気象業務支援センター  
における本邦研修



北海道放送の訪問

<写真> 国際協力機構 ( J I C A ) によるモザンビーク気象庁 ( INAM : Instituto Nacional de Meteorologia ) への技術支援 ( 気象観測及び予警報能力向上プロジェクト ) 。矢印は、当センターの専門家。  
 上 : 西洋 ( ポルトガル ) 風の INAM 本庁舎とモザンビークの地図  
 中 : INAM 本庁における衛星画像・数値予報の利用技術研修とモザンビーク中部のベイラに設置した雨量計 ( INAM 本庁より遠隔自動監視している ) 。2016 年 9 ~ 10 月。  
 下 : 4 名の INAM 職員への本邦研修。当センター会議室における研修と北海道放送訪問 ( 前列中央は、同局の気象キャスター、左はポルトガル語の通訳の方 ) 。2016 年 11 ~ 12 月。

(理事長)